

## 黙示録14章：シオンの山

今、私たちは終わりの日について学んでいる。

終わりの日についてイエス様が弟子たちに語られた言葉は、「目をさまし、注意していなさい(マルコ 13:33)」

14章で、私たちが目を覚ますべき事は「天国と地獄がある」ということ。

### 1-5節:シオンの山の14万4千人

#### 1節

黙示録7章に、14万4千人の神のしもべが出て来ていた(1-8節)。

彼らは、患難期の始めに神の印を受けていた。

今、小羊(=イエス・キリスト)がシオン山に立っておられる。

つまり、イエス・キリストが再臨されて、シオンの山(=エルサレム)に立っておられる幻である。

→ 14万4千人が、大患難を通して、殺されず、害を受けずに救われた！

13章では、獣(=反キリスト)の国があった。

獣の刻印を受けない人、獣の像を拝まない人は殺された。また売り買いができなかった。

けれども、14万4千人はそれでも生き残った。

#### 2-3節

黙示録1章で、栄光に輝くイエス様の姿がこのようであった。

そして、「四つの生き物」と「長老たち」は神の御座の前にいる人々である。

→ つまり天国が今、地上に接している状態である！

「新しい歌」神との親しい交わりをしている様子。

「こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。私たちのいのちであるキリストが現われると、そのときあなたがたも、キリストとともに、栄光のうちに現われます。(コロサイ 3:1-4)」

#### 4-5節

##### 14万4千人の特徴

1) 童貞である。 → つまり自分が神だけの者になっているということ。

「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。(1コリント 6:19-20)」

2) 小羊といつも一緒にいる。

3) 神とキリストに捧げられている。

4)口と行ないに不一致がない。

5)欠陥がない。

「私は祈っています。…またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところがなく、イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者となり、神の御栄えと誉れが現わされますように。(ピリピ 1:9-11)」

## 6-13節 三人の御使い

### 第一の御使い(6-7節)

御使いが福音を伝えている。なぜ? → 聖徒たちは殉教して死んでいるから。

神は最後まで福音を聞く機会を与えてくださっている。

「永遠の福音」なぜ? → 永遠の命の希望だから。死んだ後のことを考えているか?

「神をあがめよ」神以外のものを拝めば、それは何でも偶像である。

### 第二の御使い(8節)

「大バビロン」黙示録 17,18 章に出てくる。一言でいうならこれは「この世」

「世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。(1ヨハネ 2:15-17)」

### 第三の御使い(9-13節)

「火と硫黄」ここに、地獄の現実が描かれている。

- 1) 神の怒りが注がれている場所。
- 2) 常に、聖なるキリストの前で、自分の罪を後悔しなければいけない。
- 3) 永遠の苦しみの場所。
- 4) 休みがない。

→ ここから何を学ぶか?

#### 1) 神への恐れ

「そこで、わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。(ルカ 12:4-5)」

#### 2) 宣教への熱い思い

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(ヨハネ 3:16)」

#### 14-20節 刈り入れをなさる人の子

地上にいる者たちがキリストの再臨において、それぞれの行ないに応じて裁かれる様子を描いている。「それから、イエスは群衆と別れて家にはいられた。すると、弟子たちがみもとに来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください。」と言った。イエスは答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は人の子です。畑はこの世界のことで、良い種とは御国の子どもたち、毒麦とは悪い者の子どもたちのことです。毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです。そして、刈り手とは御使いたちのことです。ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行なう者たちをみな、御国から取り集めて、火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ざしりするのです。そのとき、正しい者たちは、天の父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。(マタイ 13:36-43)」

→ キリストの再臨は、私たちが地上で行なったことを清算される時である。

イエス様だけのために生きているかどうか？

「それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すのには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。人の子は父の栄光を帯びて、御使いたちとともに、やがて来ようとしているのです。その時には、おのおのその行ないに応じて報いをします。(マタイ 16:24-27)」

「1600 スタディオン」約 300 キロメートル。イスラエルとその近隣地域が、世界の軍隊の死によって血の海になる。